

○医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が必要な感染症

病名	感染期間	登園のめやす
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間を経過していること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間が多くなり、咳・鼻水から1～2週間(便から数週～数か月)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること 解熱後1日以上経過し、全身状態が良いこと
ヘルパンギーナ	咳・鼻水から1～2週間(便から数週～数か月)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
無菌性髄膜炎	エンテロウイルスは上記同様 ムンプスウイルスは耳下腺腫脹1～2日前から腫脹5日頃まで	全身状態が安定していること
伝染性紅斑(リンゴ病)	かぜ症状出現から発疹が出現するまで	全身状態が安定していること
ウイルス性胃腸炎 (ノロ・ロタ・アデノウイルス等)	急性期が最も感染力が強いが、便中に3週間以上排泄されることもある	嘔吐・下痢などの症状が治まり、普段の食事がとれること
急性細菌性腸炎 (サルモネラ・カンピロバクター)	便中の菌排泄が数週間以上続く	嘔吐・下痢が治まっていること
マイコプラズマ感染症	症状のある間がピークだが、保菌は数週～数か月持続する	発熱や激しい咳が治まり、全身状態が良いこと
RSウイルス感染症	3～8日だが、乳幼児では3～4週間持続することもある	発熱・咳などの症状が治まり、全身状態が良いこと
ヒトメタニューモウイルス感染症	ウイルス排泄期間は通常1～2週間	咳などの症状が治まり、全身状態が良いこと
パラインフルエンザウイルス感染症	症状出現1週間前から症状消失後1～3週間頃	咳などの症状が治まり、全身状態が良いこと
肺炎クラミドフィラ感染症	呼吸器症状のある間がピーク	咳などの症状が治まり、全身状態が良いこと
インフルエンザ菌b型感染症	保菌している間	発熱・咳などが治まり、全身状態が良いこと
肺炎球菌感染症	保菌している間	発熱・咳などが治まり、全身状態が良いこと
サイトメガロウイルス感染症	1～3歳の30～40%がウイルスを排泄	解熱し、全身状態が良いこと
EBウイルス感染症	唾液や咳・鼻水から数か月	解熱し、全身状態が良いこと
ライノウイルス感染症	初期の2～3日が多く、通常7～10日	咳などの症状が治まり、全身状態が良いこと
単純ヘルペスウイルス感染症	水疱を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること
帯状疱疹	水疱を形成している間	すべての発疹が痂皮化してから
日本脳炎	(蚊の媒介によって感染)	症状が回復していること
A型肝炎	黄疸出現1～2週間前に便中に高濃度排出され、発症1週間程度まで	肝機能が正常化した後
B型肝炎		急性肝炎の急性期でない限り
C型肝炎		急性肝炎の急性期でない限り
突発性発疹	感染力は弱い、発熱中感染力がある	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと
ポツリヌス症	(ヒトからヒトへは感染しない)	症状が回復していること
ネコひっかき病	(ヒトからヒトへは感染しない)	症状が回復していること
デング熱	(発症1～2日前から約7日、蚊へ感染)	症状が回復していること
重症熱性血小板減少症候群	(血液・体液を介し感染することもある)	症状が回復していること
伝染性膿痂疹(とびひ)	湿潤な発疹がある間	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度のものであること(皮疹・痂皮が湿潤している間は接触による感染力が認められる)

参照:厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」、日本小児科学会「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説」

***原因不明の発熱、咳、嘔吐、下痢、発疹などの症状のあるとき**

***急性喉頭炎、急性気管支炎、急性肺炎などにおいて、入院を伴い、その原因が感染症または感染症が疑われる場合も登園届の提出をお願いします。**

※伝染性膿痂疹(とびひ)は、学童の場合加療していれば出席可とされていますが、病巣が乾燥するまでは感染力強い為、登園届の提出をお願いします。

※伝染性軟属腫(水いぼ)、頭じらみ症は、出席停止の必要はないとされていますので、登園届の提出は不要です。伝染性軟属腫(水いぼ)は掻き壊し傷から滲出液が出ているときは被覆すること、頭じらみ症は駆除を開始していることが登園のめやすとなります。